

入賞作品紹介

16

中学生の部親子賞 入選

震災と新聞

平田村 清見 夏希さん
小平中一年

あの日…あの数分の大
きな揺れで、その後の日
常には様々な変化があり
ました。幸い私たちの地
域では停電や断水なども
なく恵まれていました。
そんな中、一つの情報
源でもある新聞の配達
が、途絶えました。

私の震災以前の新聞に
対する思いは、それほど
強いものとは言えませ
んでした。しかし震災後、
新聞の大切さに改めて気
づきました。なぜかとい
うと、テレビでも、もち
ろん今の現況や今後の地
震情報などは知ることが
できました。しかし、今

まで新聞が身近にあると
いうことがあたりまえだ
った私には、新聞が配達
されないという状況は考
えられませんでした。
久しぶりに新聞が届い
た日、原発事故の内容が
大々的に書かれており、
今のように「復興」とい
う文字は見られませんで
した。少し遠くに考えて
いた原発周辺の町村が急
に身近に感じました。特
に津波の被害にあった人
の悲しい顔は、同じ県に
住んでいても別世界にい
るような感じがしまし
た。

このように新聞には今

知りたいことが多く書か
れてあり、まだまだ復興
が終わったわけではない
ですが、少しずつ世の中
が動き始め、目には見え
ず先が分からないです
が、希望が出てきたよう
な気がしました。震災か
ら時間がたつにつれて、
新聞にも「復興」という
文字が多く見られまし
た。新聞の写真も最初の
原発の時の写真より、が
れきの写真などが多くな
りました。

新聞に対する思いは、
震災があつてから変わ
りました。今後も、新聞か
ら身近な情報を見て世
中の動きを勉強してい
たいです。

私と新聞

母 清見真紀子さん

私が「新聞」を意識し
始めたのは高校生の頃で
す。公民の先生がよくお
っしゃっていた「社会人

として生きて行く為に、
新聞をしっかり読む大人
になってほしい」という
言葉が心に残っていま

す。当時私の家では新聞
を取っておらず、ニュー
スはテレビからでした
し、地域の身近な出来事
は分かりませんでした。
大人になったら新聞を
隅から隅まで読みきって
やろう！と思ったもの
ですが、最近では雑事に
追われ一面と県南を見る
のが精一杯です。そんな
中、昨年四月発行の「ふ
くしまの名木」を片手に、
山歩きやドライブをして
いると美家の父から聞き
ました。よく聞けば、
前に新聞でシリーズ掲載
されており、切り抜きも
作ったとのこと。驚きま
した。父は登山や自然植
物観賞が趣味ですが、記
事を読み一層思いが深ま
ったそうです。二年前に
行った柳津の福満虚空蔵
尊がある円蔵寺でも父の

説明が聞きました。奥の
院の名木も見る事がで
き、父の目もキラキラし
ておりました。

私はその記事を読む事
は無く、父と話すまで分
かりませんでした。紙面
には沢山の情報と話題が
ありました。どの記事を
チョイスするかは私の自
由だったので、読ま
なかった事を後悔しまし
た。父の知識には追いつ
けません、自分が同じ
年代になった時、きつと
同じ様に野山に心がむく
と思つたからです。これ
からも父と色々な話題で
盛り上がる様、掲載記
事にはひと通り目を通し
たいと思います。そして、
昔先生がおっしゃった言
葉を忘れずに、新聞と接
していきたいと思いま
す。

読む 知る 学ぶ

E! 新聞